



虫を食べてみよう！

末永 芽久

この挑戦がママテツに参加したきっかけです。大学に入学して約1ヶ月、受けていた授業の一つが野中先生（顧問）による昆虫食の講義でした。そこで好奇心に背中を押されるまま研究室にお邪魔しましたところ、偶然出会ったのがママテツとジオラマです。当時ハンドメイドが自分の中で再流行していたこともあり一目見て自分も作ってみたいと思いました。飛び入り参加したにもかかわらずママテツ部員の方々は優しく接してくださり、とても嬉しかったです。途中から友人の土江さんも加わり、今では私の一週間の楽しみとなっています。ジオラマを作り始めると、木や草の生え方、建物の形など普段の何気ないものを注意深く見るようになりました。最近では、世の中の物全てがジオラマの素材になりえるような気さえしてきます。

自然をテーマにした作品を作るにあたり、最も苦戦したのは‘自然’の状態を‘意図して作り上げる’ことです。草や苔、汚れは風や湿度、養分の有無などといった何らかの理由があってそこに存在します。なぜそこに、それがあるのか？ こんなことを考えながらパーツを設置していくのはワクワクする半面、大変な作業でもありました。

手と頭と口を動かしながら作り上げた人生初ジオラマ、まだまだ未熟ではありますがどうぞ温かい目でご覧ください。

〈作品解説〉

家：使用材料は厚紙で、「アルプスの少女ハイジ」の山小屋をイメージしたデザインになっています。壁は絵具を重ね塗りすることで漆喰のような質感を表現しました。入口にあるのは苔のカーペットです。苔のカーペットに寝転がるのが私の長年の夢です。

木：実物の雰囲気を出すために木の幹は本物の小枝やデラウエアの枝を利用しました。大きく枝分かれしていることで、整えられた庭木に見えないように工夫しています。家へとつながっている小道には分かれ道を作り、寄り道ができるようにしました。人生、寄り道が大事だと思います。家の右前にある不思議に曲がった木は〈地球木〉という名を持ち、ぶら下がっているブランコからはこの世界を一望できます。名前の由来は、幹の形が地球儀の弓部分のように見えるからです。

草：こちらも木と同様、リアリティを追求するために近所で採集した雑草を植えました。主に猫じゃらしの房が生えています。家の前に咲いている白と黄の花は、花卉の形に似た種の袋に着色したものです。

井戸&小道：井戸は粘土で作った石を積み重ねて製作しました。小道はヒノキの端材から、ウッドチップは池の削りカスに着色したものを使用しています。

沼とその周辺：沼は1stステージの地下から流れ出る水が溜まってできたものです。土台は木曽ヒノキを利用しているため、沼を掘る際とても良い香りがしました。この沼はママテツ須賀さんの作品とつながっています。中央に現れた人影はディーキンさんです。この沼は世界の水と繋がっているため、時折ディーキンさんが様々な他の世界を行き来しています。水中には土台の年輪が透けて波紋のように見えるでしょうか。手前の大きな岩は花崗岩です。

MAMMA TETSU!



